

境界を越えた協力 カナダの油濁対応の観点から

ピエール・サムソン
ケベック地域担当マネージャー



Tel: 1-418-692-8989
Email: psamson@simec.ca
Web: www.ecrc.ca

カナダ東部の水路は、カナダの主要な海の玄関口である。カナダ極東の港湾であるニューファンドランド・ラブラドル州のセントジョンズから、五大湖の最西端に位置するオンタリオ州サンダーベイまでは、その距離 **2200** 海里以上と非常に長い。船はセントローレンス湾、セントローレンス河、そして五大湖を通り、航行する。そして、そのルートを通るためには、油流出事故が発生した際の対応能力があることを示さなければならない。

油濁対応-カナダの体制

実際に油濁対応の体制が整ったのは **20** 年ほど前、およそ **1990** 年代の前半のことであった。

カナダ湾岸警備隊(CCG)は、指導的役割を担う機関であり、油流出事故発生の際には責任機関(RP)が適宜、必要に応じて対策を確実に講じるようにさせなければならない。

カナダ海運法は、北緯 **60°** から南側の流出事故対応体制を規制する。事故対応に備えた能力とはすなわち、民間企業により資金や物資等を提供され、かつリスク分野と流出シナリオに基づいて定義された計画標準を満たすことを指す。周辺の **50** マイル圏を含んだ **10** ヶ所の主要港湾が、重要対応地域 (PAR) として、またその他 **4** ヶ所の海峡が、対応強化地域として指定された。こうした基準に見合う適切な対応能力を備えるため、業界はカナダ国内に **4** つの対応組織 (RO) を設置した。

ECRC-SIMEC

ECRC-SIMEC は認証対応組織 (RO) である。ECRC-SIMEC の担当対応地域は、セントジョンズ、ニューブルンスウィック、ポイント・タッパー、ノバスコシアの重要対応地域を除く、北緯 **60** 度線以南、及び東は洋上 **200** マイル地点から、西はブリティッシュコロンビアの境界線までの、可航水域全域である。

メンバーは ECRC-SIMEC との合意文書に調印することで、対応能力の準備に係る規制要件を満たすことができる。

油流出事故が発生した際には、責任機関 (RP) が、状況に応じた適切な対応を開始しなければならない。実際に発動となれば、ECRC-SIMEC は「油濁対応サービス」を現場

指揮官（OSC）に対して提供する。このサービスには、行動計画、機材、リソース、及び汚染浄化活動に係るオペレーション管理が含まれる。ECRC~SIMEC は機材だけではなく、ICS のアプローチに基づいたオペレーション管理も提供する。責任機関（RP）は ECRC~SIMEC で発生した費用全てを負担する。

ECRC~SIMEC の準備段階で発生する費用は、会員全員が負担する。その原資は、船舶に係る固定費(750 ドル/年)、及び石油取扱施設に対する 1 トン当たりの費用、そしてバルク石油貨物に対する費用(ケベック州の費用は 1 トンあたり 12.9 セント) 等の会費である。

ECRC~SIMEC は、6 ヶ所の対応センター（RC）を有しており、それぞれが 18 時間／2,500 トンの計画基準要件を満たす、油濁対応専用機器を備えている。例えば、船舶、ブーム、油回収機、貯蔵バージ、ポンプ、通信機器等である。機材のほとんどは、道路交通を利用した運搬が可能であり、必要に応じて、様々な地域の流出事故現場において、油濁対応訓練を受けたオペレーターに引き渡すことになる。

ECRC~SIMEC の 47 名の正社員が、流出対応計画及び戦略の作成と更新、流出対応機材のメンテナンス、対応担当者のトレーニング等の準備活動に従事している。実際の対応が行われる期間中は、このメンバーが流出管理チームの中核となり、そこに相互援助機関であるパートナーやアドバイザーが入って活動を展開する。

各対応センター（RC）は、戦略を実行するために、契約業者のネットワークを通じて、トレーニングされた対応要員を確保し、また計画上指定されている機材あるいは実際に事故が起きた際に必要な機材を、適宜配備しなければならない。

こうした対応能力に関しては、カナダ運輸局の監視の下、認証取得目的に実施される演習を通じて検証されている。また過去 20 年間に 300 件以上の事故を取り扱った事実により、その能力は実証済みである。

境界を越えた協力

北極圏を除き、カナダと国境を共にする唯一の国は、米国である。

しかし過去数年間、ECRC~SIMEC を構築する上でも、また日々の活動の中でも、我々は多くの障壁に直面した。この「境界」を乗り越えるため、強力な対応組織（RO）、及び効率の高い流出対応制度を、カナダとして作らなければならなかった。

カナダ - 米国との国境

複数の海域にまたがる地点で発生した海洋汚染事故を支援するため、米国・カナダ両国で、海洋汚染緊急時対応共同計画が作成された。

CCG の地域ディレクター及び USCG の区域指揮官は、自分たちの管轄地域、例えば五大湖の CANUSLAK のような地域に関して、双方で利用可能な補助文書を作成した。

同計画の目的は、油濁対応計画、準備、対応における連携したシステムを提供することであり、その基本には、必要に応じた公共支援を通じて強化された民間部門の対応資源の活用がある。連携を前提とした計画策定が地方レベルでも取り組まれ、対応に必要な資源の境界を越えた移転が、流出事故の際に円滑に実施されることが狙いである。

こうした計画の内容は、国際的な定期演習を通じて検証されている。

その他の障壁または境界

この制度を20年前に発足させた当時の目的の一つは、カナダにおける対応能力の強化と改善であった。この目的を達成するため、我々は既存の強みを存分に活かし、既にうまくいっている部分はさらに強化し、欠点を補い、時には障壁や境界と見なされるもの乗り越えていかなければならなかった。

地域の障壁

我々の中核的な人材は、普段は製油所、あるいは造船所や埠頭の船舶上でタンクの清掃に従事したり、タンクトラック事故や船舶の小規模な流出事故に対応する「産業清掃業者」の人々である。

その他の対応要員は、海洋業界の人材に頼っている。例えば、タグボート会社、船舶サービス会社、地元の小さなクルーズ会社、漁師等である。

流出事故発生時に、**ECRC~SIMEC** の仕事に従事することは、彼らにとって良い経験でなければならず、ビジネス機会の損失と捉えられてはならない。流出事故の洋上対応のトレーニングを受け（そして給与を受け取ることは、彼らの自律性を高め、小規模な流出事故であれば、自ら対応できる専門性を養うことになる。大規模な流出事故への関与や、人材や機材及びサービスの提供、そして早急な給与の支払といった要素も、長年に渡る強固な関係性の構築に貢献し、また初期段階に存在する障壁も取り払うことができた。

また、ボランティア達も、事態解決の一翼を担いたいと考えている。彼らは、効率良く作業し、自分や他者への怪我を防ぐためには、統制のとれた体制下で働く事が重要であると理解せねばならない。野生生物グループあるいは沿岸清掃業者の中でボランティアとして働く形は、幅広く受け入れられている。

地域性

その他の対応組織（RO）、カナダ沿岸警備隊、あるいは政府機関との協業は必要不可欠ではあるが、時に生じる障壁は乗り越えなければならない。

カナダの4つの対応組織（RO）の間では、大規模流出事故の発生の際に、人材、機材、及びその他リソースを共有するという、相互援助に関する合意が取り交わされている。類似する管理システム下での就労は、対応の際に役立ち、また対応資源の融合も円滑に進めることができる。

カナダ沿岸警備隊は流出対応機材を保有している。僻地、あるいは重要対応地域外の地域は、リスクは低いものの、事故が起きれば対応組織（RO）による対応期間がより長くかかる事が想定されるため、カナダ沿岸警備隊は、カナダのグローバル対応能力強化に向けた戦略の一環として、その保有機材をこれら地域に再配備している。

様々な省庁や組織の強み、及び専門性を活かすことは、全体としての成功に必要なもう一つの要因である。SCAT プロセス(海岸清掃評価法)は、カナダで20年以上も使用されている手法である。カナダ環境省及び ECRC~SIMEC は、その作成を共同で行い、流出事故対応中の活用を推進した。我々はこうした取り組みを通じて、世界中で起こる様々な流出事故に対応した経験を持つ、カナダで中核的な役割を担う専門家集団の設立を支援した。

同様のアプローチは野生生物への対応でも採用され、カナダ環境省、カナダ野生生物サービス及び ECRC~SIMEC がそこに関与した。

グローバル対応ネットワーク

業界から資金サポートを受けた7つの油流出対応組織が、グローバル対応ネットワークを構築しており、その中で知識とベストプラクティスの共有を実践している。7つのオペレーションチーム (OT)が結成され、様々な分野を担当している。オペレーションチームは、技術的専門性及び機材の両面から、大規模な対応に必要なリソースを特定した。

境界を越えた協力

我々の持つ強みを活かし、他の組織と共有した取り組みは成功した。

2005年に、ECRC~SIMEC は大規模な電車の脱線事故の対応に関わった。我々は、人員や技術アドバイザー数名（SCAT 専門家、SCAT リーダー、マッピング専門家、データマネジメント専門家等）を動員し、全般的な SCAT プロセスを実行しなければならなかった。2010年のマコンド事故においては、SCAT プロセスはかなり広範な地域において長期間実施されることになった。ECRC~SIMEC のメンバー及び我々のアドバイザー数名を、米国支援要員として派遣することが要請された。そして結局、この SCAT グループの約半数はカナダ人で構成されることになったのだ。

時に我々は、氷という条件下で対応しなければならない。訓練及びオペレーションに係る専門性を共有することは、成功への鍵である。我々は十年近くに渡りグローバル対応ネットワークを通じて様々な油流出対応組織出身の人材を巻き込んだ実践的ワークショップを開催している。現在、1週間のトレーニングセッションを3回、モントリオールで開催しており、参加者はアラスカ、カナダ、米国、英国、グリーンランド、ノルウェイ、シンガポールから来ている。もし氷海域のどこかで大規模な流出事故に対応しなければならなくなった場合、ここが人材の共有に貢献する場になるだろう。

緊急時対応共同計画は、カナダ及び米国にまたがる流出事故対応のために、二国間で策定された。

準備の段階から既に、障壁を取り除き、他の組織と共有かつ協力することは、成功への鍵である。そうした取り組みが、境界線の外で起きた大規模流出への対応の際に役立つであろう。その一方で、機材や人材の共有には限界があり、対応能力はカナダ国内で維持されなければならないということは、理解しなければならない。